平成２５年度

事　業　報　告

自　平成２５年４月　１日
至　平成２６年３月３１日

公益社団法人京都染織文化協会

は　じ　め　に

京都染織文化協会は、染織祭衣装と全国染織産地合同制作布地という文化的価値のある染織資料を所蔵し、日本の染織文化、染織技術の啓発と継承を目的として様々な公益事業に取り組んでおりますことはご高承の通りと存じます。特に昭和 6 年に始まった染織祭のメインイベント・女性時代衣装行列（※行列は昭和 8 年より）のために誂えられた衣装 143 領は上古～江戸後期に使われた技術を再現した、完成度の高い復元品として美術館・博物館に高い評価を得ており、展覧会への衣装貸付や年間 2 回開催する染織文化セミナーでの展示でもって一般社会に公開し好評を得ております。

染織祭は京都の染織業にとって命運を賭けた大がかりな振興事業であったことはあまり知られておらず、当協会調査により徐々に明らかになってきています。染織祭の背景となった昭和初期は、大正時代に創設ラッシュを迎えた女学校のセーラー服起用を発端とする洋服の定着化や主に関東地方で生産されていた銘仙の大流行など、高付加価値を得意とする染織大国・京都の染織業を脅かす世の中の嗜好の変化に直面していました。折しも昭和 3 年の昭和天皇即位の礼「大嘗祭」によって日本の伝統が再び見直される風潮や市域の拡張による大京都市誕生の高まりもあり、日本の伝統的衣装であるきものの素晴らしさを社会全体に再認識させるため、染織業界が一丸となって取り組んだのがこのお祭りであったわけです。

市場不振、職人の高齢化、後継者不在など、現代の京都の染織業は、存続を揺るがしかねない大きな危機に再び直面しています。我々京都染織文化協会は染織祭の精神を礎として、日本の伝統的染織文化・染織技術を一般社会に啓発し、日本の染織品の素晴らしさを再認識してもらうことで業界発展の一助となるよう後記の通り事業を推し進めてまいりました。

今後も引き続き会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成２５年度　事　業　報　告

１．会員の加入及び退会

	期 首	加　入	退　会	期末
会員数	５５	１	５	５１

入会商社：㈱細尾
退会商社：㈱熊谷次商店、㈱柴増、東邦織物㈱、㈱古川、安田多七㈱

２．会務

■第６５期通常総会

平成 25 年 5 月 24 日	ホテルグランヴィア京　　都	１．平成 24 年度事業報告承認の件 ２．平成 24 年度決算報告承認の件 ３．平成 25 年度事業計画(案)承認の件 ４．平成 25 年度収支予算(案)承認の件 ５．役員改選の件 ６．その他

■理事会

平成 25 年 4 月 17 日	書　面　決　議	１．平成 24 年度事業報告並びに収支決算報告の件 ２．その他

6 月 5 日	書　面　決　議	１．理事長、副理事長及び常務理事の選任について ２．その他

7 月 26 日	書　面　決　議	１．KPA 京都プリント振興協会主催『KPA メイキング・ワークショップ』に対する当協会の共催名義使用許可、賞状下付並びに助成金（50 万円）の交付承認について ２．その他

平成 26 年 1 月 28 日	書　面　決　議	１．（一社）日本テキスタイルデザイン協会『ShakeHand3.11＜vol.2＞』に対する当協会の後援名義使用許可並びに後援金（10 万円）の交付承認について ２．その他

3 月 25 日	京都産業会館 5　階 会 議 室	１．平成 26 年度事業計画（案）の件 ２．平成 26 年度収支予算（案）の件 ３．代表・業務執行理事の職務執行報告 ４．第 66 期通常総会日程の件 ５．その他

３．実施事業

■公益事業

（1）染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

＊「染織祭」の詳細調査並びに公開

衣装制作の背景となった昭和 6～15 年に執り行われた染織祭について北野裕子氏（龍谷大学社会科学研究所客員研究員）に調査を依頼し、今年度は昭和 15 年（染織祭中止）～26 年（織協引き渡し）までの染織祭衣装の軌跡についての資料調査、ヒアリング等の実施を行った。調査成果は当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に追加掲載して一般社会に広く啓発した。（継続事業）

＊染織技術アーカイブの作成並びに公開

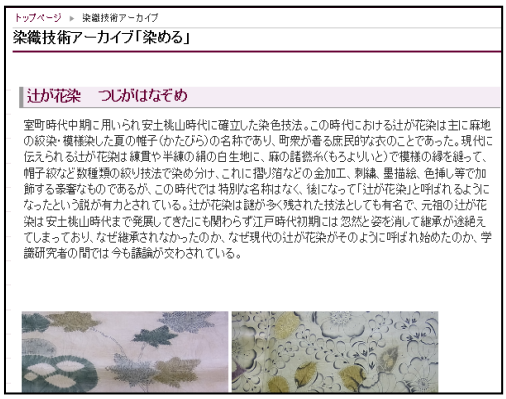
所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で、染織祭衣装は北川満哉氏（学芸員）、全国染織産地合同制作布地は福井健二氏（染織専門家）に調査、解説を依頼し、今年度は次の通り公開した。

（新規公開内容）

「染織衣装」／室町時代衣装 18 領

公開技術　　「 織 る 」……羽二重

「染める」……辻が花染



「全国染織産地合同制作布地」／1999 年春・夏物向布地 2 点

公開技術　　「 織 る 」……天竺編み

「染める」……転写プリント／ウェーブプリント

「 装 飾 」……マジョリカプリーツ

＊染織祭衣装の補修・修繕

今年度は平安時代の衣装を対象とした補修・修繕を行う予定であったが、貸付要望が多い奈良時代衣装 8 号「紕帯（そえおび）」の経年劣化が著しいためオリジナルの貸付を中止し、代替用としてレプリカの制作を行った。

＜対象衣装＞

奈良時代衣装 8 号の「紕帯」

＜依頼先＞

京都刺繍協同組合　刺繍すぎした（北区紫竹上本町）

＊所蔵資料貸付協力

（染織祭衣装）

◎日本絹の里 15 周年記念事業「絹とアジアの民族衣装～蚕からの贈り物」への衣装貸付

展示期間　　4 月 27 日（土）～6 月 3 日（月）

会　　場　　日本絹の里（群馬県高崎市）

内　　容　　蚕品種による絹糸の特質、織りや染めの技法等の視点から民族衣装をとらえ、絹を生み出すカイコと共に歩んできた多様なアジアの民族衣装の紹介を通じ、人類の歴史における絹文化の重要性と親近な存在としての絹の魅力を伝えた。

貸付衣装　　上古時代 1 領、奈良時代 2 領並びに道具類

展示協力　　当協会より衣装紹介原稿の作成並びに北川満哉学芸員を派遣して衣装の着付と展示指導を行った。

入場者数　　3,919 名

＊その他（染織資料保管倉庫の移動）

全国染織産地合同制作布地の参考資料2,178 点を京都産業会館6F 倉庫にて保管をしていたが、資料の活用を促進するため全資料を京都産業会館 5F 倉庫へ移し引き続き保管した。

（2）染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

＊子ども向け染織技術啓発冊子の増刷と配布

きものをより身近な衣料として受け止めてもらうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、子どもが初めてきものを着るシーンである十三まいり、七五三詣りに於いて次の通り配布した。（1,000 部増刷）

＜配布先＞◎十三まいり

日　　時　　4 月 6 日（土）

配布場所　　ご清遊の宿らんざん（嵐山）

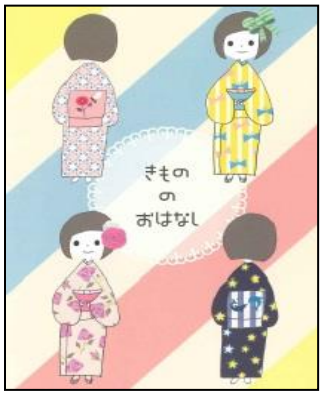
配 布 先　　京都新聞・織商主催の十三まいり参詣者 165 名に配布

◎七五三詣り

日　　時　　11 月 9 日（土）

配布場所　　平安神宮

配 布 先　　京都新聞・織商主催の七五三詣り参詣者 300 名に配布



＊染織文化セミナーの開催

◎「平安時代のくらしと染織文化」

日　　時　　12 月 10 日（火）14:00～16:00

会　　場　　京都産業会館 5F コムスホール

講　　師　　鳥居本　幸代　氏（京都ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ女子大学生活福祉文化学部　教授）

内　　容　　日本独自の文化が生まれた平安時代にスポットをあて、絵画や随筆・物語の中から伺える服装のきまりごとや季節感、光源を考えた色合わせについて語るとともに当協会所蔵の平安時代衣装 3 領並びに道具類を展示し、染織技術の啓発をはかった。

受 講 料　　無　料

広　　報　　（会員・関係団体・美術館等）当協会より案内送付

（一般）11/25 京都新聞夕刊に広告掲載

受講者数　　当協会会員、関係団体、美術館、一般　66 名

◎「描かれた服飾、残された染織～鎌倉時代のくらしと染織文化～」

日　　時　　平成 26 年 3 月 25 日（火）14:30～16:30

会　　場　　京都産業会館 5F コムスホール

講　　師　　山川　曉　氏（京都国立博物館学芸課教育室長）

内　　容　　武家文化が発展した鎌倉時代にスポットをあて、現存する収蔵品から伺える染織文化について語るとともに当協会所蔵の鎌倉時代衣装 3 領並びに道具類を展示し、染織技術の啓発をはかった。

受 講 料　　無　料

広　　報　　（会員・関係団体・美術館等）当協会より案内送付

（一般）3/10 京都新聞夕刊に広告掲載

受講者数　　当協会会員、関係団体、美術館、一般　60 名

＊インターネットミニ染織講座の開催

当協会ウェブサイト内において、奈良時代衣装８号紐帯のレプリカ制作の過程を説明と画像、動画を交えて記載し、動画はインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし相互リンクして当協会ウェブサイトの閲覧を促した。

◎「紐帯のできるまで（生地選定～生地を染める＜引き染め＞)」

更 新 日　　平成 25 年 7 月 9 日

◎「紐帯のできるまで（染めた生地の色を定着させる＜蒸し・水洗・乾燥・湯のし＞」

更 新 日　　平成 26 年 1 月 20 日

インターネットミニ染織講座

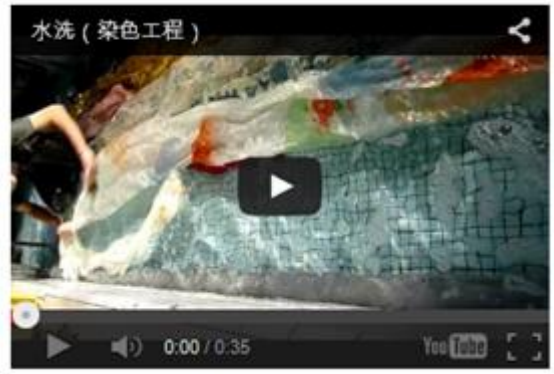
紐帯のできるまで(生地選定～生地を染める＜引き染め＞)

奈良時代衣装8号は、使われた染織技術の見事さだけでなく彩色豊かな華やかな雰囲気を持つ衣装です。特に美術館等に貸付する際の人気が高く、一方で唐衣･表着･裳･紐帯という構造から、マネキンへの着付展示というトータル的な見せ方が必要となりその作業が衣装の傷みを加速させる大きな原因になっていました。
当協会では、衣装の中でも特に今後貸し付けに耐えられない紐帯に着目し、レプリカを制作する取り組みをはじめました。今後はこのレプリカを代用することによってオリジナルの保全を行なう考えです。

奈良時代衣装8号の紐帯　（オリジナル）

紐帯のオリジナルは、画像の通り苧布(羅)の繊維が経年劣化により切れて下生地がみえており、刺繍部分によりかろうじて苧布が留まっている状態です。今まで補修･修繕を繰り返していましたが、もはや手を加えること自体が苧布に大きなダメージを与えてしまいます。

※クリックで拡大します。



（3）染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき下記事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会主催「メイキング・ワークショップ 2013」への共催

会　　期　　11 月 1 日（金）～3 日（日）10:00～19:00※最終日 18:00

会　　場　　京都府京都文化博物館別館（中京区三条高倉）

制作ﾃｰﾏ　　情熱特区

出 展 者　　14 社　22 組

内　　容　　染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。今回は丹後産地の生地に染色を施すオール京都のものづくりに取り組んだ。当協会からは共催名義使用許可、助成金 50 万円の交付並びに京都染織文化協会理事長賞の下付を行った。

来場者数　　918 名

◎（一社）日本テキスタイルデザイン協会主催「Shake　Hand3.11＜vol.2＞展」への後援

会　　期　　平成 26 年 3 月 4 日（金）～16 日（日）

会　　場　　galarie　H20（中京区富小路三条上ル）

内　　容　　東日本大震災の被災地・東北をデザインの力で支援することを目的とし、被災した染織業の職人のものづくりにデザイン指導を組み合わせてオリジナル商品を開発し、同展にて販売してその売上金を被災者支援として寄付した。当協会からは後援名義使用許可並びに後援金 10 万円の交付を行った。

来場者数　　約 500 名

■会員事業

＊会員向講座事業

当協会主催講座は継続検討とし、今年度は関係先講座を会員へ案内した。

◎「どうなる日本のものづくり―メイドインジャパンの将来―」

（京都工芸繊維大学創造連携センター事業協力会講演会）

日　　時　　6 月 11 日（火）15:30～16:10

会　　場　　京都工芸繊維大学 60 周年記念館

講　　師　　井上　久男氏（フリージャーナリスト）

案 内 先　　当協会会員へ案内を送付

◎会員の加入メリットとして、京都市美術館友の会へ会員登録を行った。

＊京都ブレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させてまったく新しい素材の開発と加工を行い、市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で取り組んでいるが、今年度は開発したグラスファイバー、特殊撚糸シルク、ポリエステル融着糸の加工に取り組むとともに製品化の選定・検討を行った。（継続事業）